（別紙4）　　平成 23 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3670100035		
法人名	社会福祉法人　さわらび会		
事業所名	グループホーム野バラ		
所在地	徳島県徳島市名東町2丁目456番地		
自己評価作成日	平成23年9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成23年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりの個性を尊重し、希望にそった支援や生活スタイルを提供している。食事面では個人の嗜好にあった味付けや糖尿病食、代替食を毎食提供している。また、野バラ農園で収穫した野菜を調理し提供している。入浴は夕食後に行い、同性介助にも対応している。利用者一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、家事や得意なことを中心に好きなように過ごしてもらい、散歩や行きたい場所への外出支援も多く取り入れ、利用者全員が充実した毎日を過ごすことができるよう支援している。音楽療法を行い、馴染みのある唄を歌うことで、脳の活性化や回想法にも繋げている。また、電話や手紙等で連絡を取りあい、遠方にいる家族と交流する機会を設けている。職員は、利用者に対してつねに尊敬と思いやりの気持ちで接するよう努めており、温かい馴染みの関係を構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者は、家庭的で落ち着いた雰囲気のなか、その人らしく穏やかな日々を過ごしている。利用者と職員は、同じ食卓を囲んで会話を楽しみながら食事をとっている。事業所内・外の行事や催し物も多く取り入れている。職員は、様々な研修に参加している。運営推進会議の際には、様々な報告を行ったり、質疑応答も活発に行ったりしている。職員は、つねに自己研鑽を重ね、サービスの質の向上に繋げている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　グループホーム野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が書いてくれた理念を見やすいところに掲示し、つねに念頭において支援している。利用者も声に出して読んでいる。	毛筆で大きく書いた理念をリビングに掲示している。管理者と職員は、理念にそった介護に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけたり、季節の行事や地域活動等に参加したりしている。保育所の子どもや小学生との交流、近隣の方と面会等を行って関わりをもっている。	地域の夏祭りや敬老会に参加している。保育所の子どもや小学生の来訪もあり、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事への参加を通じて理解に努めている。また、地域の在宅の高齢者や介護する家族の悩みを聞き相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や活動、研修内容の報告を行い、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センターの職員から様々な意見をいただいている。参加者からの率直な意見は、職員の気づきや再確認にも繋がり、日ごろのサービスの質の向上に反映している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター、管理者が参加し、行事や研修、事故、ヒヤリハット等の報告、説明、質疑応答等を行っている。会議を重ねるごとに議題が豊富になり、内容が充実している。事故事例も公開し、共通認識のもと対応策を考え、利用者の安全に繋げている。参加者から得られた情報を日ごろのサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護・ながいき課の担当者に何度も相談し指導していただいたり、調べてもらったりしている。	市介護・ながいき課の担当者に相談し、指導等を受けている。市担当者と密に連携を図るよう心がけ、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害等を勉強会で繰り返し学び、理解している。玄関を施錠せず、開けるとチャイムが鳴るようにしている。利用者一人ひとりにあったケアを実践することで身体拘束は行っていない。	職員は、身体拘束の弊害等に関する研修を受講し、その内容を正しく理解している。出入り口は、開けるとチャイムが鳴るようになっており、つねに開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年間の勉強会に虐待防止に関するプログラムを取り入れて学んでいる。職員のストレス軽減やチームワークにも留意し、日ごろの利用者や職員の状態を観察している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホーム野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、年間の研修に取り入れて勉強している。家族に情報提供したり、運営推進会議でも話しあったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず十分に説明を行い、理解や納得が得られたうえで契約を締結している。改定時には、質問しやすいように一人ひとりに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を重く受け止め、反映するよう努めている。家族には面会時等に話を聞き、満足度調査を行って改善に繋げている。すべての家族に結果を報告している。	年1回、法人全体で、満足度に関する調査を行っている。また、意見箱を設置したり、家族の来訪時には積極的に話を聞いたりして、サービスの質の改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日ごろの業務のなかで話しあっている。職員一人ひとりの意見を反映できる体制を構築している。	月1回、職員会議を実施している。出席できない人からは紙面で意見を出してもらい、職員一人ひとりの意見を反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、努力や実績を評価している。同時に面接や話しあいも実施している。また、就業時間で終われるよう、業務の見直しを図って、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職場内で勉強会を行っている。外部研修では職員一人ひとりの能力や希望にそって、全職員が積極的に参加している。外部への出張内容は、全職員が閲覧できるようになっている。グループホームに配属されてから資格を取得した職員も多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業をきっかけに、他事業所との交流が広がっている。相互に意見を出しあって、ともにサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホーム野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活背景や心身の状況を把握し、ゆっくりと聞き取りを行い、希望や不安を理解するよう努めている。家族からも本人の状況を細かく聞き、安心の確保と継続に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に対する家族の思いや現在の状況、求めていることなどを受けとめている。希望していることを実践に繋げたり、不安を取り除いたりすることで、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内に施設サービスや複数の在宅サービスがある。医師や他事業所のケアマネジャーとも連携を図り、最良なサービスを選択してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろの生活のなかで、人生の先輩である利用者から様々なことを教えていただいている。助けあって支えあうなかで信頼関係の構築に繋がり、家族のような温かい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、相談しあえる関係を築いている。本人からの手紙や電話の支援を継続することでとても喜ばれ、疎遠になっていた家族との連絡や面会する機会が増えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への訪問や墓参りを行っている。住んでいた家に行ったり、昔から利用している美容院へ出かけたりしている。また、手紙や電話等を活用し、様々な方法で支援を続けている。	利用者と職員は、住んでいた家や馴染みの美容院、墓参りなどに出かけている。来訪者に、お礼の手紙や電話をかける手伝いをするなど、様々な方法で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性にあった仲良しグループが自然にできている。孤立しがちな方には、職員が配慮して家事等の共同作業を通じて自然に関わりが持てるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホーム野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移っても、ケアプラン等の情報を提供し、これまでの暮らしが継続できるよう働きかけている。また、面会に行くなどして関係を継続している。家族には、電話や手紙等で関わりを持ち続け、必要に応じて対応している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	つねに本人の意思を確認し、利用者一人ひとりの思いや希望を最優先したケアを心がけている。困難な場合は全職員で話しあい、より良い方法を検討している。	日ごろのさりげない会話から、利用者の思いや希望を把握するよう努めている。意思の表出が困難な利用者には、表情や反応から意向を察して職員間で話しあい、よりよい方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日ごろの会話から、回想法により生活歴や暮らし方を把握している。また、センター方式を取り入れ、新たな情報は書き足している。家族の情報も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	多角的に注意深く観察し、利用者一人ひとりのその日の心身状態を正しく把握できるよう努めている。特に、認知症が進行している方は、状態変化を見逃さず全職員で共有し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望にそうことを最優先し、ケアに関わっている全職員が話し合い、医師や看護師、栄養士、理学療法士の意見も反映している。	利用者や家族の希望を最優先に捉えている。医者や看護師、理学療養士、栄養士等の意見を踏まえ、全職員で話しあって介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの様子や変化等を介護記録に記入している。介護計画と記録を連動した形式をとっており見直しに活かしている。毎月、介護計画の実施状況を評価し、次月に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すべての診療科において通院の介助を行っている。また、リハビリ通院や家族宅、美容院等への送迎も実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホーム野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護や看護の実習生を受け入れたり、保育所や小学生との交流等に積極的に取り組んだりしている。消防署には、避難訓練のほか緊急時の対応等に関する勉強会も依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に必ず確認をとって希望する医療機関を受診できるよう支援している。継続して治療や通院ができるよう取り組んでいる。夜間の急な対応は嘱託医と連携し、診療情報の提供等を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的に嘱託医の訪問診療がある。通院の支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護職の来訪があり、バイタル測定や処置、状態観察、相談を行って、9名の利用者の状態を把握している。また、つねに看護職と連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁に連絡を取りあって協働している。入院時には、なるべく多く面会に行って状況把握に努め、家族や医師と相談したうえで早期退院を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員の連携体制や力量、他の利用者への影響などを考慮し、体制作りに取り組んでいる。重度化した方については、家族の意向を優先し、医師や看護師と連携を取りながら安心して過ごしていただけるよう支援している。	利用者や家族の希望を最優先し、重度化や終末期に向けた体制づくりに取り組んでいる。現在、看取りの実施には至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内・外の研修を年間計画に取り入れ、全職員が繰り返し勉強している。事業所内の研修は、実践中心の内容となっている。また、夜勤時の緊急対応にも取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者とともに避難訓練を実施している。内1回は消防士の参加があり、避難誘導等を指導してもらっている。また、非常用品の備蓄を行っている。地域との協力体制については会議で話しあっている。	災害時のマニュアルを作成し、年2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。また、地域住民との協力体制を構築している。非常時に備えて備蓄を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価　グループホーム野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを大切にし、個人にあわせた言葉かけや対応等を心がけている。不適切な言葉使いや対応が見受けられた際には、管理者から注意や助言をしたり、話しあったりしている。	日ごろから、利用者と目線をあわせて会話するよう心がけている。利用者一人ひとりの人格や誇りを尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や希望の表出が可能な利用者には、選択の機会をゆっくりと設け、職員が決めつけないよう留意している。意思表示が困難な方には表情から読み取るなど、必ず希望にそえるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	暮らし方の決まりはなく、利用者一人ひとりのペースや希望に応じた支援をしている。起床や就寝、食事、入浴の時間も希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望する美容院へ行ったり、更衣介助の時には本人に服を選んでもらったり、髪をセットしてもらっている。乳液やクリームの使用、毛剃りなどにも対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛りつけなどを活き活きとした表情で行っている。職員は、利用者に教えてもらいながら感謝の気持ちを伝えるようにしている。調理などができない方は、味見などで参加してもらい、五感に働きかけ旬を感じてもらっている。	利用者と職員は、調理や盛り付けなどのできることをともに行っている。また、楽しい雰囲気のなか同じ食卓を囲んで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、適切な摂取ができるよう努めている。利用者一人ひとりの咀嚼や嚥下力、体調に応じて食事形態を工夫し、糖尿病食の提供も行っている。また、とろみをつけたり、好みの飲み物を提供したりして、水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりの状態や能力に応じた口腔ケアを実施している。口腔用スポンジや歯間ブラシ、口腔洗浄剤を使用して、隙間の汚れを取り除いたり、舌を磨いたりしている。歯ぐきのマッサージ等もしている。		

自己	外部	項　目	自己評価　グループホーム野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者一人ひとりにあった支援を行い、布パンツで過ごせるよう努めている。また、プライドを傷つけないよう配慮している。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握してトイレ誘導などの支援に繋げている。布パンツで過ごせるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に、牛乳や乳製品、乳酸菌飲料等を提供している。毎食後には、手作りの寒天ゼリーを提供している。また、日ごろから、便秘に効果のある食品の摂取等を勧めている。体操や散歩、腹部マッサージ等も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	家庭での入浴に近づけるよう、夕食前後に支援している。利用者一人ひとりの好みの湯加減や習慣を大切にし、体調面にも考慮したうえでゆっくりと入浴していただいている。入浴時間や同性介助の希望にも対応している。	利用者一人ひとりの希望に応じた時間帯に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やすことを重視し、好きなときに昼寝や休息をとってもらっている。夜間は、水分補給や安心して眠れるような言葉がけを心がけており、室内温度や照明を好みにあわせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの病気と服薬内容が分かる資料をすぐに見られるようにしている。臨時に処方された薬は、誤薬等がないよう周知徹底して二重チェックをしている。また、状態観察や医師との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や農作業、裁縫等、それぞれの得意なことをすることで活き活きと生活している。季節ごとの行事や習わしなども、教えてもらってともに行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	神社へのお参りや買い物、自宅や馴染みの場所への外出支援等を行っている。また、花見や阿波踊り見物等の季節の行事も行って楽しんでもらっている。遠足は、家族とともに出かけ、親子水入らずの時間を過ごしてもらっている。	利用者一人ひとりの希望に応じた外出の支援を行っている。遠足やホタル見物、阿波踊り見物等に家族とともに参加し楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価　グループホーム野バラ 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞き、力量に応じて支援している。つねに少額だけ所持している方や、外出の時だけ本人に持ってもらって自分で支払っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	“野バラ便り”や近況報告の手紙を出すときに、利用者にも手紙や宛名だけでも書いてもらうと家族も喜んでくれている。また、電話をかける支援を行っており、良い交流の機会となっている。家族から手紙や電話をいただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節の花や農園で収穫した野菜を生けたり、利用者の作った作品や写真を飾ったりしている。居室には、花や好きな物、馴染みの品等を置き、安心して過ごせるよう配慮している。また、大きな音を立てないように注意している。	リビングや食堂、台所が繋がっているため、全体を見渡すことのできる広い空間となっている。共用空間には、利用者の写真や作品、花等を飾っている。利用者一人ひとりが居心地良く安心して過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには大きなソファがあり、ゆったりと座って気のあう人同士で話をしたり、ともにテレビを見て過ごしたりしている。中庭のベンチでは、日向ぼっこを楽しむこともできる。ひとりがけのソファもあり、気分にあわせて思い思いに過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品、家族の写真、好きな絵や花等、利用者一人ひとりの好みにあわせている。居室に仏壇を置き、ご飯やお茶をおまつりしている方もいる。	居室には、トイレや洗面台、家具等を設置している。室内には、写真や絵画、仏壇等を持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、ドアの目印、混乱するものの排除など、一人ひとりの状態にあわせた環境づくりに努めている。		